

授業科目 基礎社会学特論 (地域社会学特論・家族社会学特論)	科目概要・形式 4単位60時間(30コマ) 講義科目	配当年次 博士前期1年次 前期開講	オンライン参加 <input type="checkbox"/> ・不可
科目責任者	廣森 直子 (非常勤)		
担当者	平川 毅彦 (非常勤)、廣森 直子 (非常勤)		
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>平川 毅彦 (地域社会学特論) 15 コマ 「地域社会」および「コミュニティ」という考え方の形成プロセス・議論をたどり、これらの社会学的意味を明らかにしたうえで、(1) 望ましい地域社会としての「地域コミュニティ」、(2) 生活上の課題を抱えた個人を支える「福祉コミュニティ」、という二本の柱から地域社会の意義と課題について、動画事例等をもとに検討する。</p> <p>廣森 直子 (家族社会学特論) 15 コマ 家族は人々にとって最も身近で基礎的な集団として、私たちの生き方を強く規制してきた。しかし、その家族は今、大きく揺れ動きその存在自体が問われるようになってきている。変動しつつある家族の現状を理解するとともに、そのような変化をもたらしている要因についてジェンダー視点から考察するとともにこれからの家族のあり方について展望する。</p>			
<p>2. 授業計画・内容</p> <p>(地域社会学特論)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2 地域社会についての社会学的理解 3. 戦後町内会を巡る議論と都市コミュニティ論 4. 都市空間と地域社会 5. 地域社会「解体」の原因と結果 6. 地域社会「解体」と下位文化論 7. 社会福祉から見た地域社会1：生活問題発生の場合 8. 社会福祉から見た地域社会2：生活の主體的側面と地域社会 9. 「福祉コミュニティ」の考え方 10. 「福祉コミュニティ」の源流：仙台市における生活圏拡張運動と「福祉のまちづくり」 11. 「福祉コミュニティ」の展開：愛知県知多半島地域における定年退職者の生活史と地域社会 12. 「福祉コミュニティ」形成とその意義：愛知県岡崎市における重度身体障害者の生活史と地域社会 13. 「社会的排除」の場としての地域社会 14. 「地域共生社会」の実現に向けて 15. まとめ <p>(家族社会学特論)</p> <p>【とりあげる主なテーマ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家族とは何か：家族の定義、家族の用語、家族の分類、家族をみる視点 2. 家族の機能と役割：家族が個人と社会に対して果たす機能と役割 3. 家族の変動：家族形態と家族機能の変化 			

<p>4. 経済システムの変動と家族</p> <p>5. DV、虐待と家族</p> <p>6. これからの家族：個人化と社会的包摂</p>
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>(地域社会学特論)</p> <p>教科書</p> <p>平川毅彦『地域社会を調査するということ—地域社会／地域福祉調査法』現代図書、2023年、ISDN978-4-434-31426-1</p> <p>参考書</p> <p>平川毅彦『社会関係の主體的側面と福祉コミュニティ』 ブイツーソリューション、2017年、ISDN978-4-434-23367-8 (電子書籍版)。</p> <p>(家族社会学特論)</p> <p>教科書</p> <p>特に指定しない。</p> <p>参考書</p> <p>岩間暁子、大和礼子、田間泰子『問いからはじめる家族社会学 — 多様化する家族の包摂に向けて』有斐閣、2015年、ISBN 978-4-641-15016-4</p>
<p>4. 成績評価方法</p> <p>(地域社会学特論)</p> <p>毎回の講義時におけるディスカッション内容及びまとめとして作成された課題とそのプレゼンテーション内容をもとに総合的に評価する。</p> <p>(家族社会学特論)</p> <p>出席状況とレポートなどにより総合的に評価する。</p>
<p>5. 受講要件</p> <p>特になし。</p>
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>集中講義による開講を予定していますが、受講生の状況を勘案してオンライン参加による毎週ないし隔週開講も可能です。</p>
<p>7. その他</p> <p>(地域社会学特論)</p> <p>指定した「教科書」は授業開始時までに各自生協ないしアマゾンに注文・購入し、受講時に持参してください。講義の大半はテキストに記された内容を中心にすすめ、テキストの読み合わせも行います。</p>